

(繰下げ移動夜間例会) 職場訪問

職業奉仕委員会 18:00～(於)北海道庁旧本庁舎 赤れんが庁舎



酒井 純 職業奉仕委員長

本日は移動例会に参加していただき、ありがとうございます。道庁について少し話させていただきます。

北海道庁は1886年(明治19年)に設置され、1947年まで北海道の行政を統括した地方行政機関であり、旧本庁舎(赤れんが庁舎)はその象徴的建築として現在も保存されています。

設立の経緯は、北海道庁は内務省直轄の行政機関として設置されました。それ以前は開拓使が北海道の統治を担っており、1870年には樺太開拓使が設置され、開拓使は北海道開拓使と改称されました。

1882年に開拓使が廃止され、三県一局体制が設置されましたが、行政の不安定さから1886年に北海道庁が発足しました。北海道庁は長官の下に長官官房、総務部、学務部、経済部、土木部、拓殖部、警察部が置かれ、北海道全域の行政を統括しました。

北海道は他の府県と異なり、北海道地方費法に基づく『北海道地方費』により公法人扱いとされ、北海道会法に基づき北海道会や北海道参事会が設置されました。府県制の規定も部分的に準用され、独自の自治制度が整備されました。

旧本庁舎(赤れんが庁舎)は、1888年(明治21年)に完成しました。アメリカ風ネオ・バロック様式の煉瓦造りで、設計は道庁技師の平井晴二郎が担当し、米マサチューセッツ州議事堂をモデルに八角塔を設置しました。建築資材には札幌軟石や白石村で製造されたレンガが使用され、フランス積みで美しい壁面が作られました。

1909年(明治42年)には火災で内部が焼失しましたが、煉瓦壁は残り復旧工事が行われました。1969年(昭和44年)には国の重要文化財に指定され、昭和43年の新庁舎完成まで約80年間、北海道行政の中枢として機能しました。近年では大規模な改修工事が行われ、歴史文化、観光情報の発信拠点としてリニューアルされました。

赤レンガ庁舎は北海道の開拓と自治の象徴であり、年間約70万人の観光客が訪れる札幌のシンボルです。建築技術やデザインは明治期の先進的な技術を反映しており、北海道の歴史を学ぶ上で重要な文化財となっています。

以上、本日は重要文化財を堪能しながら食事をしてください。



■本日のロータリーソング

それでこそロータリー

2025-2026年度
国際ロータリー会長のメッセージ
国際ロータリー会長: フランチェスコ・アレツツォ

よいことの
ために
手を取りあおう